関係団体ヒアリング 経済分野(報告)

1 日 時 令和元年8月5日(月) 14:00~15:00

2 場 所 長崎商工会議所 2階 特別会議室

3 団体名 長崎商工会議所 長崎都市経営戦略推進委員会

4 参加者 長崎商工会議所 長崎都市経営戦略推進委員会委員 10名

長崎商工会議所 4名

関係所属: 商工振興課 1名、産業雇用政策課 2名 合計17名



参加者の主なご意見

☆10年前から良くなったこと☆

- ◆ 長崎のまちの開発が進んだ(駅前等)
- ◆ 道路整備、交通網整備、クルーズ船整備が進み、外から人が来やすくなった。
- ◆ 世界遺産や新三大夜景によりインバウンド効果があった。

☆10年前から悪くなったこと・最近困っていること☆

- ◆ 製造業(造船業)の仕事が減ってきている中で、働き方改革が進められると企業は厳しい状況 となる。
- ◆ 韓国との貿易問題の影響が懸念される。
- ◆ 現在、建設業は好景気だが、東京五輪が終われば建設業は衰退することが予測される。
- ◆ 働く女性、共働きが増え、出生数が減っていくことをどう改善するかが問題。
- ◆ 現在、中国人観光客は多くいるが、今後(10年後)も継続するとは限らない。
- ◆ 今後、長崎では大手重工が造船から撤退することも考えられる。
- ◆ 人材確保が難しくなっている。(内定を断られることが多く、福岡等へ行ってしまう)

- ◆ 長崎市の製造業においては大手企業が占める割合が多く、普通のまちがすべき(他の市が行っているような)水産製造業など他の製造業の振興に着手できていない。
- ◆ 製造業においては受注競争に負け始めており、自前の受注ができていない。
- ◆ 長崎の大手企業が衰退するとその裾野(協力会社)まで波及してしまう。
- ◆ 空港から JR・市内へのアクセスが悪い。(空港利用があまりなされていない)
- ◆ 他県と比べて富裕層の外国人観光客が来ていない。
- ◆ 高齢者について在宅での介護や看護、自宅での看取りの需要が増えていくが、介護・ 看護に携わる側の人間が減る中でどう確保していくのか不安感がある。(看護・介護の 担い手不足)
- ◆ 広域的に成功している地域はどういった要素があるのかなど、他地域の情報を得ながら、成功事例をきちんと分析し、活用できていない。
- ◆ 企業誘致で誘致した企業等が下請けの育成など周りを巻き込んで成長できるシステムでなければならないが、長崎市にはそのような企業は来ていないのではないか。また、地元企業が求めている人材が、誘致企業に取られてしまうことも懸念される。
- ◆ 誘致した企業が多くの雇用を生むかというと必ずしもそうとは言えないし、採算が合わなくなると撤退することも懸念される。
- ◆ 人口減少により長崎の広告業界はマーケットとして縮小してしまった
- ◆ 市の財政が弱くなっていくが、アクションが感じられない。
- ◆ 市の商店街の歩行者数が減っている。

☆これから10年間、市が取り組むべきこと☆

- ◆ 出島、県庁舎跡地など新しい観光地、まちなかを整備することで、新しい観光客(富裕層)を獲得していくべき。
- ◆ 大きな企業に頼るのではなく、長崎のいろんな製造業に力を入れていくべき。
- ◆ 松が枝ふ頭の2バース化が進んでいるが、本当に海外から多くの人が来てくれるのか、 お金がおちるのかをきちんと考えなければいけない。
- ◆ 状況が悪い商店街をよく見極めて補助金を投入するなど支援をすべき。
- ◆ 県内・県外一体となって盛り上げていく施設の誘致計画がもっとあればいい。
- ◆ 長崎の地元の企業を育てていくことにもっと力を注いでいかなければならないのではないか。地元企業を強くすることで雇用が創出されるのではないか。今後は宮崎市や大分市等の先進地との比較も必要。
- ◆ 決済や通信などソフトインフラについて、利便で快適なものが大切になってきている。 首都圏ではそういう時代がすでに来ている。長崎でも努力すべき。
- ◆ Wi-Fi の完備を行政主体で進めてほしい。(民間ベースではちぐはぐになってしまう。)
- ◆ 人口減少の状況を考えたら、早急に経営戦略を検討すべき。以前あったように北部九州連携を再度してもらい、競争というよりは共生できるような働きかけを行ない協力すべき。
- ◆ 市として何を重点的に取り組むのか姿勢をもっと示すべき。
- ◆ 中小企業支援が他都市と比較して十分ではないので、地場企業の育成にもっと力を入

れる必要がある。(雇用の受け皿を増やす)

- ◆ ふるさと教育。若い世代にもっとシビックプライドを持たせてほしい。
- ◆ 他自治体に負けない魅力づくり、まちづくりを進めるべき。
- ◆ 長崎駅周辺に現在力を入れているが、中央地区商店街など周辺の活性化に力を入れて ほしい。
- ◆ 行政として選択と集中をするべき。
- ◆ 交流人口を増やしていくことを大きな柱にして、取り組んでいくべき
- ◆ 人口を増やす策についてスピード感を持って取り組むべき。